

第26回博多地区本部定期大会

11月19日(土) 11時より、博多「泰平ビル5F」にて第26回博多地区本部定期大会が開催されました。井上喜代彦副委員長の開会の挨拶に始まり、中島文夫議長(博多車掌区)による進行のもと、経過報告では、新幹線分会より加藤昌孝氏、博多分会より大仁田豊氏、車掌区分会からは秀島勝則氏、久留米分会より中川智功氏に代議員として発言していただき、各職場における問題点と今後の取り組みについての議論を深めました。



穴井委員長あいさつ

皆さんこんにちは。委員長の穴井です。現在、私たちを取り巻く情勢は大変厳しい状況が続いています。会社はコロナ感染拡大の影響で大幅な減収を理由に4期連続でボーナスの大幅減額を行い、ベースアップも3年連続で見送るなど社員のモチベーションを上げる結果とはなりません。また、ダイヤ改正では、西九州新幹線開業と平行し、乗務センターの統廃合、大幅減便や6両ワンマン化、ワンマンエリア拡大による車掌職場の廃止、さらには無人駅の拡大、大幅な営業時間の短縮により、社員一人あたりの負担は確実に増加しています。当然、職場では社員の不満が蔓延しています。多くの若手社員が会社の将来性に不安を抱き、退職を考える中、我々が率先して「その前に国労に」と思って貰えるような運動を展開しなくてはなりません。「闘いは最大の防御」とも言います。私たちが闘い続けなければ、今の労働条件さえ守れません。この厳しい状況を「今がチャンスだ」と捉え、皆さんの中にある「これがあるから国労で頑張っている」という思いを胸に、今後もよりいっそう組織拡大、労働条件改善に向け奮闘していきましょう。

新役員を紹介します

- ・穴井憲寿(執行委員長) ・井上喜代彦 ・西村公孝(副執行委員長) ・諸永貴司(書記長) ・香田賢晋(書記次長) ・川崎良秋 ・西野亨 ・佐藤康徳 ・岩田佳史 ・久本和彦(執行委員) ・高倉慎一 ・松隈秀博 ・平井浩幸(会計監査)

代議員による発言(要約)

- ・香椎線での分割の際、以前は駅係員が分割車両が「宇美行き」か「西戸崎行き」かを案内しにホームまで来ていたが、ここ最近来なくなった。お客さまの誤乗を防ぐためにも駅員を配置して欲しい。香椎線では運転士が車いすの対応をしなければならず、10分くらい停車するのが何駅か続けばバッテリーが心配になってくる。
大仁田代議員(博多運転区)
- ・ボーナスの低額回答が続く中、回答額が徐々に回復傾向にあるといった声も聞こえるが、私たちの働きぶりを考えると、コロナ前の水準で貰うべき。会社の施策について、現在、組合説明が全く行われないことが多く、労使関係の前提が守られていない。
加藤代議員(博多新幹線電気区)
- ・4組はベテラン行路の組であるにもかかわらず、最終列車の乗務が多い。健康面は考慮されているのか? 減便で積み残しや急病人対応が増え、毎回のように仕事がスムーズに行かない。ダイヤ改正の本数に戻して欲しい。
秀島代議員(博多車掌区)
- ・長崎線でのワンマン運転において、学生が大量に乗車してくる時間帯も自転車扱いが指定されている。以前は全車扱いだったのに、会社はなぜ、わざわざ業務効率を下げようとするのか、その理由が知りたい。
中川代議員(久留米運輸センター)